

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470501418		
法人名	有限会社すずらん		
事業所名	グループホーム潮風		
所在地	津市阿漕町津興214番地2		
自己評価作成日	平成30年1月30日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kihon=true&JigvosvoCd=2470501418-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	平成 30年 2 月 19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者のみならず、ご家族も含めての大家族と捉えている中では、日常的にご家族様との交流がある。入居者の方を中心に、職員ともざくばらんな関わりを持って頂いており、実家のように気軽に日常的に寄って頂いている。近隣の方に多く入居して頂いている事も、その要因のひとつとなっている。オープンで明るく、家庭的な雰囲気が自慢です。昔取った杵柄を發揮して頂く中で、職員と一緒に家事を協働して頂いている。終の棲家としてご本人ご家族の最期の迎え方を尊重し、グループホーム潮風において看取りもさせて頂いている。終末期の迎え方については、ご家族様の意向に寄り添い、柔軟な対応をさせて頂いている。主治医の指導を基に、ご家族様と心を合わせ、心穏やかな終末期を過ごして頂く中で、尊い看取りへと繋げさせて頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

生活リハビリを重点に、したい事・する楽しさを求めて、それぞれ自由な日常生活、自主性を尊重し、家族の安心・信用・信頼で繋げる見守り支援を実践している。また、多くのボランティアの訪問で定期的に主に開催される音楽、楽器演奏を取り入れ、音楽療法の一環となっている。管理者は職員がいつも笑顔でいると、それだけで心が和み居心地の良い空間が生まれる。そうした環境が整った中でモチベーションのスイッチが動き出し、認知症の人のエネルギーが、ふつふつと湧き立つような係わりをしていきたいと支援を続ける事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人がその人らしく暮らせる個々に合わせたオンリーワン支援、笑顔あふれる暮らしを大切にしている。入居者を中心にご家族様、職員が思いをひとつにした日常的な関わりを持つ中で、我が家に居る様にのんびりと過ごして頂いている。	その人の思いを掴み、個々に尊重し、聞き取り寄り添っている。その支援の最中には、いつも笑顔を決して絶やさず、一人ひとりのペースで日常生活が送れる支援が実践されている。理念は、玄関・事務所出入り口・リビングと常に目に付く場所に掲示してある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域も交えた活動として、手作り減塩味噌作りは定例化、毎年2月に一年分を作っている。医療福祉生協との協働で健康体操教室、地域カフェ、映画上映会等にも参加している。	近所の農家から野菜・果物を頂いたり、子供のSOSの家に協力したり、海岸の清掃に参加している。また、幼稚園児の慰問、地域の方に助言協力して手作り味噌を作ったり、御礼としてホームで作る佃煮・ういろ・漬物をお返しとして日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	潮風の協力医療施設との交流は、健康予防活動として地域の中で根付いて来ている。地域の方を交えての減塩味噌作り等も、毎年恒例の潮風のイベントであり、地域カフェ等高齢者の集いにも積極的に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	潮風の近況、現況の報告、地域内でのリアルタイムな情報共有を行う中で、困りごと等、解決に向けた情報交換、話し合いの機会としている避難の方法等。災害時の潮風の取り組みの実情をリアルタイムで開示している。	偶数月第3(水)13時30分からと開催月を決めているが、事業所の事情で現在4回実施した。次回は2、3月を予定している。自治会長・民生委員・市担当者・家族が出席し、事業所の行事、入居者情報、困り事等が報告され意見交換を行いサービス向上に活かしている。	多忙な業務を抱えていると思われるが、地域密着型ホームとして地域との交流、協力体制、外部者との意見交換等で理解と支援を得る為の機会となるので年6回の開催を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点等、日常的な相談に対して気軽にに応じて頂いている。その都度解りやすく、細やかなアドバイスを指導が頂けるのでとても心強い。	主に運営推進会議での交流が多いが、介護保険制度、相談、助成援助等に訪れ、普段から馴染みの関係があり連携が作られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについては、その具体的な例を挙げ説明している。危険を回避する為の個々に適した方法については、ご家族や職員の意見等を踏まえその都度最適と思われる方法を検討している。	拘束対象事例の場合は職員間で安全対策を考え、拘束をしないケアの方法を常に考え支援している。退院時からの拘束着の継続指示があったが、主治医と相談しながら職員の努力に寄って解消された例もある。常に行動を制限しないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法律の内容、課題背景を示し、虐待のない介護を徹底している。介護リスクを全体の問題として捉える中で、情報を共有し、職員の介護ストレスが虐待に連鎖しないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前入居されていた方が制度を利用されていた事もあり、リアルタイムでの情報共有が可能であったが、現在は対象者もなく、マニュアルを常備する中で制度の理解の努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に至るまでのプロセスをお聞きしていく中で、ご本人やご家族の思い、要望等を十分に傾聴し話し合いを深めるようにしている。潮風とご家族が思いをひとつにした相互理解をした上での契約としている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の関わりの中で思いを言い出しやすいように声掛けをしている。面会時を利用してご本人の状態を示し、近況報告を行う中でご家族の思いや要望を聞かせて頂き、要望の実現に向けた支援を工夫している。	面会時や家族に携帯番号を教え、いつでも普段から何でも言える環境作りをしている。3ヶ月毎に介護家族報告書を、また、不定期に日頃の生活状態を写真に取り個々に送付したり、敬老の日には家族交流会を開催し意見の把握に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中で情報の共有、情報交換を密にしている。情報共有ノートを日常的に活用しその時々意見や提案、困りごとなどについてをリアルタイムで記入し、その都度の問題解決へと繋げている。	管理者は職員からの信頼が厚く、普段から良好な関係が作られている。申し送り時や情報共有ノートへの記入等からの意見を聞く事がある。業務・支援内容の事が多いが、最近はベッド柵に足を突っ込まない様にと柵の改善方法が提案されすぐ反映させた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来る限り個々の職員のライフスタイルを優先した勤務スタイルの実現に努めている。個々の職員のモチベーションが高められるような支援を心掛け、頑張った職員が報われるような賃金体系へと繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苦手分野のある職員には、力量のある職員や管理者が克服に向けたサポートを心掛けている。自信を積み上げる中で個々の職員の力量が高められるように、その都度可能な方法で資質のに向けた指導や内部学習に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型協議会、小規模ケア研究会、認知症家族の会、介護支援専門員協会、地域の医療関係者との交流を深める中で見聞を広めたり、その研修等を活用しサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントした情報等を含めた中でゆったりと傾聴し、ご本人の願いや希望等、ご本人の真の思いを引き出すようにしている。寄り添う中で信頼関係を築き、安心感を持って頂けるような関係作りへと繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至るまでの苦悩や葛藤をゆったりと傾聴する中で、不安に思っている事、求めている事等を把握、本音を吐き出して頂けるような対話を心掛け信頼関係が構築できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	表面的な訴えだけに捉われる事無く対話していく中から真に必要としている事を見極めていく。相談内容を傾聴する一方で専門職としての見解を示し必要な支援へと繋げていくように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の家事等、個々に出来ることは職員と協働で行って頂き、共に仕事をする中で得意を発揮して頂くようにしている。そのような機会がご本人の意欲を引き出し、自信の回復及び生活力への喚起へと繋がっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者、ご家族、職員がひとつの家族であり日常的に気軽な交流がある。ご本人にとって潮風は我が家であり、ご家族にとっては実家でもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の希望やご家族の情報等を聞かせて頂き、今までのご本人を取り巻く関係等を勘案する中で、可能な限り入居までの関係が途切れない様に支援し大切にしている。	利用者は近くの方が多く、近所の知人・友人の面会が多い。家族の協力の下、実家や美容院・初詣・外泊等、馴染みの関係が途切れない様に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご本人の身体状態と性格、又趣味や職業など、今までの生活環境等をも勘案する中で、相性の良い方を見極め、より良い関係作りへと繋げていけるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方、潮風で看取りをさせて頂き退居された方、そのご家族が立寄って下さり現在も日常的に交流させて頂いている。又運営推進会議や行事等にも参加して頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族の思い、希望をしっかりと傾聴する中から、ご本人にとっての最適な方法を引き出して行けるように努めている。	日頃の会話の中で、表情・しぐさ等から把握しているが、面会時・電話等で家族からも思いを聞いている。把握された思いや意向は介護記録に記入し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や過ごし方など、ご本人とご家族からの情報を基に、今までの慣れ親しんだ暮らし方が尊重出来るよう常に心掛け、日々の生活に反映出来るように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の暮らし方や価値観を尊重した日課を工夫する中で、生活力の喚起が図れるような側面的な支援を心掛けている。その時々々の思いや希望を取り入れた生活が可能となるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族がどう過ごしたいと思っていられるを聞かせて頂く中で、細かな状態の変化に応じたリアルタイムな検討を重ね、ご本人らしい過ごし方の実現に向けた介護計画を考案している。	家族が記入した「意見・意向の記入用紙」で把握し、介護記録に基づき状態の変化が無い方は3ヶ月～6ヶ月間にモニタリングを職員が行ない、集約された意見を個々対象の利用者について職員・家族と話し合い、現状に即した計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を基本に捉える中でリスク管理する為に必要な情報の共有、特記の記録、個々の状態に応じたリアルタイムでの詳細な援助方法を情報共有ノートとして日常的に活用し、個別な支援へと繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人がその人らしく暮らせる個々に合わせたオンリーワン支援を工夫している。日常的にご家族との交流もあり、その都度の状況に応じた最適な方法を話し合う機会ともなっており、柔軟な対応が可能な環境となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会、民生委員、入居者ご家族、地域ボランティアさん等の協力をはじめ、医療福祉関係者等との交流を通して、社会性の充実を図り、安心して安全に、楽しんで暮らせる生活作りに努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の入居者、ご家族の意向を反映した上で、協力医療機関による定期往診及び24時間対応による随時の相談、診療体制が可能となっている。	本人・家族の同意で全員協力医となっている。協力医は、緊急時は24時間対応が可能であり、定期往診が月1～2回ある。受診は日常生活状態を主治医に伝える為、事業所が支援し、家族にはその都度、電話で受診報告をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関、主に担当看護師には日常的に相談、リアルタイムな情報交換、情報共有をすすめる中で、その都度適切な指導やアドバイスがあり、安心出来る体制が構築出来ている。又地域の看護師との交流も多い。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族、医師、看護師、ソーシャルワーカー等、医療関係者との交流を日常的に行う中で、そうした時に、最善な対応が可能となるような関係作りの構築に日々努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については、日頃からご家族、主治医との話し合いを重ねるがーに備えている。並行して個々の終末期のあり方についての情報を職員間で共有、その方とご家族にとっての最善な終末期ケアに向けて意思統一を図っている。	家族の希望があれば主治医の指示を家族に伝え、その状態になった場合に指針で説明し同意書を交わしている。実施時には職員と対応方針を決め家族と話し合い、再度確認票で同意を得てチームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	個々の身体状況については、各職員が日常的に把握し、予測される事態に備えている。一方で慌てず的確な行動、適切対応(応急処置含む)が可能となるよう日常業務の中で、話し合いを深め実践に繋げている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対応については、その具体的な方法をリアルタイムで情報発信しご家族、職員、地域の中で情報共有している。入居者、職員には避難訓練等、ご家族には年1回9月防災教室を実施、地域の方には運営推進会議を活用して協力体制を構築している。	災害時の対応・方針・手順があり、避難場所も災害の種類に応じて場所も決めている。備蓄も食料・おむつ等があり、トイレの水、非常時持ち出しリュックも用意してある。防災意識を高める為、日常的に繰り返す必要性があると考え、日々訓練に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のプライバシー・プライド・人格の尊重については、職員間で十分に意思統一を図り、個々に応じたその人にふさわしい対応をその都度工夫している。	人生の先輩と思い、言葉づかいにきをつけ、上目線をせず目線を合わせて会話をする事に心掛けている。また、他人に見られて恥ずかしい事や自分がされて嫌な事はしない支援を行い、呼称は名前をさん付けで呼び合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の気持ちに寄り添う中で、その時々のお思いを共有、共感し、真の思いが意思表示して頂けるように、側面的な働きかけをその都度工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自信を持って生活して頂けるように、職員はさりげなく、その日の身体状態や精神面に配慮しつつ、ご本人の希望を取り入れた過ごし方が可能となるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着心地着脱を優先しつつ、希望あるおしゃれを楽しんで頂いている。特にヘアスタイルを気にされる方多くこまめなヘアカットで対応し喜ばれている。1名の方は毛染めも含めて馴染みの美容室に行かれています(髪は真っ黒なので染めた事は一度もない！??との事)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養だけに捉われずその日の入居者のリクエストに応えたり、地域の方に頂いた旬の食材を献立に加えたり食事が楽しみとなるように工夫、一方で職員も交え大家族のようにテーブルを囲み会話しながらの食事も楽しみな貴重な時間となっている。	地域の方から頂いた野菜・果物を利用し食材を買い求め、旬の物を美味しく頂く工夫をし、職員が交替で調理している。その都度、献立を決めるので、利用者は今日は何の料理だろうかと台所からの匂いに楽しみを持っている。利用者と職員と一緒に家庭の味を楽しみながら、会話に繋げる食事の時間が流れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー・栄養配分・水分量・好み・主治医の意見等を勘案する中で個々の摂取の目安を決めている。個々の口腔機能に応じた調理方法や好みなどを配慮しながら、食事を楽しみとして頂けるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後残差物を除去する等個々に必要な口腔ケアを実施している。朝夕の歯磨き、うがい等で口腔内を洗浄、義歯については、夜間は外し洗浄後ミルトン消毒している。個々の状態に応じた方法で口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意のある方、曖昧な方を問わず、特別な事情のない限り、日中はトイレ使用を基本とし、自然な排泄が可能となるように支援している。定期的な対応の他、気配や訴え等に対応する中で側面的な自立支援へと繋げている。	普段から自然と尿意を訴える支援を心掛けているが、排泄チェック表や本人の表情・しぐさ等をみてトイレでの排泄を基本支援とし、定時にトイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を活用する中で個々の排泄リズムを確認、食生活を工夫し整腸に努めている。必要に応じて腹部マッサージを試みたり、体操、歩行、散歩等、楽しみながら行える日課作りを工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	自然な日課のひとつとして、健康管理の手段のひとつとして入浴を楽しんで頂いている。入浴後は爽快感もあり、気分転換にもなり、健康維持におおいに役立っている。	本人の希望を聞き、週3~4回午後から各種の入浴剤を使い、足浴・シャワー浴を利用しながら、入浴支援をしている。また、浴槽の出入り口は開閉トビラになっており、入浴拒否の方は話術を替えたり、気分転換に心掛け、無理強いしないで全員が湯船に浸かれる様に個々に添った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は出来る限り楽しみな時間を共に過ごせるようしている。個々の状態に合わせた中で屋外で日光浴や散歩を楽しむように心掛け、夜間の安眠へと繋げるようにしている。個々の眠りに合わせた就寝時間、起床時間を優先している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋にて薬効・薬害・服用方法を確認する事を基本とする一方で、情報共有ノートを活用し全職員が認識を深めている。又日常の関わりの中での微妙な変化を察知する視点を常に持ち、日々関わるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じた家事を、手伝って頂く中で、自信の回復、自信の喚起へと繋げるようにしている。職員も含めて大家族の中で、出来る家事を分担し、協働する事が、自身の役割意識、連帯感、達成感へと繋がっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外気浴や散歩は近隣の方との触れ合いや季節を感じて頂く機会となっている。機会をみつけて外出行事を実施したり随時対応を工夫している。又ご家族様の協力もある。	忘年会(カラオケ店へ)、海・花見(梅・桜)に手作り弁当・おやつを持参して出掛けている。家族の協力で実家・美容院へ出かけた。また、散歩・プランターの花の世話等、毎日、外気浴を楽しめる支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人やご家族の意向に沿って対応させて頂いているものの、ご本人が特に希望される物、食べたい物などを献立に加えたり、おやつに取り入れたりとの対応を実施する中では、特に使い道もなくお金を所持される方はみえない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人との交流が、活発に継続して頂けるように支援している。その都度の訴えに耳を傾けながら、その時々のおいの実現に必要な支援に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・リビング・廊下には、季節を感じて頂けるような落ち着いた雰囲気展示を工夫している。又行事のスナップや個々の思い出の写真なども多数掲示しており、満足気に眺めては会話の糸口にも繋がっている。	採光に配慮した天窓から光が差し込み、落ち着いた空間が作られ、壁面には季節の作品、行事の写真が美しくレイアウトされ、家族に好評である。リビングの周りには、座り心地の良いゆったりとしたソファが置かれ、個々、思い思いのくつろぎの場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングルームはふれあい・交流を楽しむ空間として、ソファでは親しい人のおしゃべりやご家族や知人の方とのくつろぎの場として、独りになりたい時は居間で過ごされたりと、家庭的な雰囲気の中で思い思いに自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだこだわりの物を、個別に使用して頂いている。違和感なく落ち着いた気持ちで過ごして頂けるような環境(居室等)作り等をご本人ご家族と十分に話し合いながら実現している。	ベット・机・椅子・筆筒が整備され、家族の写真等が飾ってある。ベットは個々の状態に合わせて安全に利用できる様に考えて配置されており、本人が落ち着いて過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の出来る事、出来ない事の詳細把握に努める中で、状態に応じた支援を心掛けている。残存機能を含めた身体・精神機能を勘案しながら、個々の動きに合わせた動線を確認し、自立に向けた側面的支援に努めている。		